

## 中国におけるトキ保護の概況

譚 耀匡<sup>1</sup>訳：桂 千恵子<sup>2</sup>

世界に現存するトキ (*Nipponia nippon*) の個体数は49羽, そのうち47羽は中国に, 2羽は日本に生息している. 中国のトキ47羽の内訳は, 陝西省洋県のトキ自然保護区に41羽, 北京動物園に5羽, 日本へ貸与中のもの1羽である.

かつて中国には多くのトキが生息し, 北は東北地区のハンカ湖から, 南は台湾, 海南島, 西は甘粛省に至る範囲に分布していた (図1). 1930年代にはまだ各地でトキをみることができたが, 1960年代には陝西省洋県, 周至, 西安付近での記録にとどまり, まもなくそ

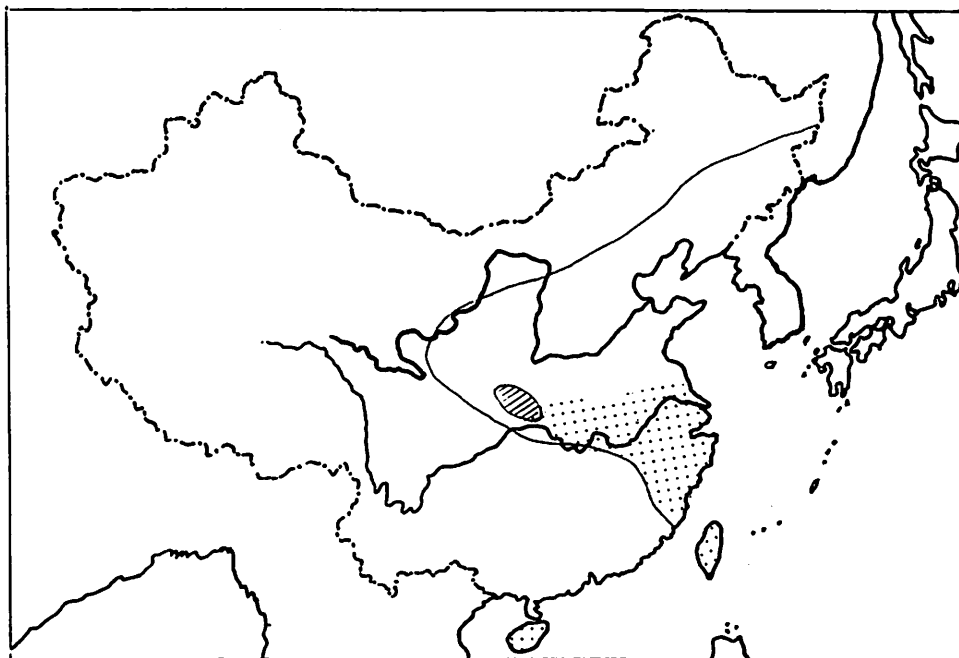


Fig. 1. Distribution of the Crested Ibis in China.

The lines in the map indicate the limit of the distribution before the 1930 s. (⊙): winter distribution before the 1930 s, (▨): present distribution.

1989年10月1日受理

1. 中国北京市, 中国科学院動物研究所
2. 〒810 福岡市中央区長浜1-2-6-505

の報告も途絶えた。

中国科学院動物研究所は、1978年以降調査員を地方に派遣して、その野生状態における再発見に努めた。3年を経過した1981年5月23日と30日、ついに陝西省南部秦嶺南面に位置する洋県金家河および姚家溝の、海拔1200~1400m地点で、成鳥2ペアと幼鳥3羽を発見、その後さらに洋県で別の2個体を確認し、この年は合計9羽となった。表1に1981年以降各年の幼鳥数と累計総数を示す。

表1. 中国におけるトキの個体数.

Table 1. Population fluctuation of the Crested Ibis in China.

	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	計
幼鳥個体数	3	2	1	5	4	7	5	7	7	41
総個体数	9	11	12	17	21	28	33	40	47	

中国におけるトキの個体数がなぜこのように減少したのか、主な原因は広範囲にわたる環境破壊である。しかしながら、洋県などの生息環境は割合よく守られていた。そこで現在、彼らのための保護区となっている。

よく知られているように、トキの巣は高木の樹上につくられる。1960年頃、大量の樹木が伐採され、彼らの営巣に適した木も失われてしまったが、洋県でトキが営巣していた木は墓地の中に生えていたので伐採を免れた。また現地の人々は、そこにすんでいる鳥を神の使いと思って大切にしてきた。

また、科学の発展にともなって農薬や化学肥料が多量に使用されるようになり、これによる環境汚染が、トキを減少させるもうひとつの要因となった。洋県の繁殖地は山岳地帯にあって交通の便が悪く、経済的に立ち後れていて、農薬や化学肥料の使用量も比較的少なかった。このため環境汚染の程度が軽く、さらに、土地の人々はドジョウやウナギを食べないので、トキのために十分な食物を供給できた。

現在のトキの分布域は、かなり海拔の高い山岳地帯で、交通が不便な、人口の少ない地域である。人間の経済活動が盛んな所では彼らは生存できない。現在、中国における分布範囲は大いに狭められ、わずかに洋県で繁殖するのみである。9月になるとトキは小群で東南方向に漂行をはじめ、陝西、四川、湖北三省の省境地域で越冬、1月には繁殖地へ戻る。

危機にある稀少種トキを守るため、まず洋県にトキ自然保護区が設定された。その位置は北緯33°12′、東経107°30′、面積は5000haである。また県行政府のある町にトキ保護ステーションを置き、9名の職員によって保護関係の統括業務を担当、当ステーションは姚家溝と三岔河の二か所に観察点を設け毎日の観察を続けている。繁殖期には毎週ドジョウやウナギを給餌する。一回の買い付け量は200~300kgに及ぶが、交通が不便で輸送に問題があり、途中で死ぬものが多い。繁殖地に届いたときにはわずかしか残っていないのが実情である。

このほか、北京動物園ではトキのために特別の禽舎を作ってその繁殖に努めている。現在5羽飼育中であるが、いずれの個体も若い。1989年、ようやく繁殖年齢に達したばかり

の2羽をペアにして、6月13日と15日にそれぞれ1個を産卵。親鳥による抱卵と人工孵化を交替で行ない、7月8日および10日にヒナを得たが、残念ながら1羽は孵化直後に、残る1羽も1週間後に死亡した。

また、一般大衆への啓蒙普及もたいへん重要なので、トキの稀少性、重要性を現地の人々に説明している。たとえば、ある青年が無知からトキを撃ったため2年間の懲役刑を受けた例などをひきながら、その工場で座談会をもつなど、大いに宣伝と教育に努めた。

中国は発展途上にある国家なので、保護関係の予算も限られている。ここに世界各国の協力と援助を歓迎したい。

なお飼育中のトキについて、北京動物園から多くの資料を提供していただいたことに謝意を表明する。

### The protection of the Crested Ibis in China

Yao-kuang Tan<sup>1</sup>

(Translated by Chieko Katsura<sup>2</sup>)

Crested Ibises (*Nipponia nippon*) absent for some years in 1970s, but were found again at Qin-ling Range in 1981. Habitats at Yangxian in the Qin-ling Range are now preserved as a sanctuary for this species. Some Ibises are kept in Peking Zoo for breeding. Two young were hatched there in 1989, but they died before fledging.

1. The Institute of Zoology, Academia Sinica, Beijing, China

2. 1-2-6-505 Nagahama, Chuo-ku, Fukuoka 810, Japan